

させぼ夢大学

発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会

事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
https://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.327 <2023・7>

令和5年度
第4回

2023年 7月20日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

開場 17:30

夢のひろば 18:00

講演 18:30(終了20:00)

今回は、米国の財政・政治の中核で公務に従事され、トランプ政権発足後の米国政治について、メディアで多くの解説をされている、政治学者の中林美恵子さんをお迎えします。

中林さんは、埼玉県深谷市出身、大阪大学大学院ご卒業です。

また、米国ワシントン州立大学大学院に留学後、日本人として初めて、アメリカ連邦議会上院予算委員会補佐官に就かれ、国家予算編成を担当されました。その間、日経ウーマン誌「1994年ウーマン・オブ・ザ・イヤー（政治部門）」を受賞。

日本帰国後は、経済産業研究所研究員や衆議院議員などを経て、現在早稲田大学教授。

著書として、2004年「日本の財



政改革」、2013年「グローバル人材になれる女性(ひと)のシンプルな習慣」、2020年「沈みゆくアメリカ覇権」など多数あります。

このように、米国議会の中核で10年勤務した、中林さんの知見と人的ネットワークは他に類を見ず、それらを生かした分析に定評があります。

第二次世界大戦後、日本とアメリカは、経済・文化・政治・軍事などの広い分野で、強い結び付きをもつ関係となっています。しかし、世界に目を向けると、両国と緊張状態が続く国々が存在するのも事実です。

この激変する国際情勢に、日本はどう向き合えばよいか、課題は何か、大変興味深い講演となりそうです。

どうぞ、ご期待ください。

なかばやし み え こ

講師 ● 早稲田大学教授 **中林 美恵子氏**

テーマ・激変する国際情勢と日本の課題



次回のご案内

■と き／8月17日(木) 18:30～20:00

■講 師／順天堂大学教授 **小林 弘幸氏**

■テーマ／健康になる7つの習慣
— 健康は自律神経のバランスで決まる —

●埼玉県出身。順天堂大学医学部卒。ロンドン大学付属英国王立小児病院、トリニティ大学付属医学研究センターなどを経て、現在、順天堂大学医学部教授、日本スポーツ協会公認スポーツドクター。各種研究の中で自律神経バランスの重要性に着目し、日本初の便秘外来を開設した腸のスペシャリスト。自律神経研究の第一人者として、プロスポーツ選手、アーティスト、文化人等へのコンディショニング向上指導に関わっている。

7月の講演会は第3木曜日です。

中林美恵子 氏のプロフィール

●埼玉県深谷市出身。大阪大学大学院卒、博士。米国ワシントン州立大学大学院留学後、日本人として初めて、アメリカの連邦議会・上院予算委員会補佐官に採用され、約10年間にわたり米国家予算編成に携わった。帰国後、経済産業研究所研究員や衆議院議員などを経て、現在、早稲田大学教授。





門田隆将氏



せほ夢大学講演会
時代を読み解く 講師 門田隆将氏



歴史に学ぶ

北松浦郡佐々町 法本 安子

させほ夢大学の楽しみの一つ、「夢のひろば」が再開され、久しぶりに生の音楽を楽しむことができた。理事長さんの気象予報の話も興味深く、普段いつも気にしている予報も、今は進化し、生活の必需品であり、感謝しなくてはならない。

さて、今回の講師、門田隆将氏も、今、私たちが平和に生きているのは、その礎には歴史の積み重ねがあることを忘れてはならないということ、を、伝えたかったのだろう。



■お話にとっても熱がこもっていて、90分の時間があっという間でした。戦艦大和の話の中に、「佐世保」が歴史のカギを握る重要なキーワードになっているというお話は、とても興味深かったです。その歴史の積み重ねがあって、今の私たちがいるということを再認識させてもらいました。熊本の事例を聞きながら、LGBT法案の恐ろしさを、現実と感じました。世界情勢のあり方等々、まだまだ時間が足らず、聞き足りない感じでした。誰にでもわかりやすいお話、ありがとうございました。

佐世保市江迎町●岩崎 けい子

■当夜も、帰路を共にする友と一緒に。何と門田氏の著書を購入されていて、私に先に読むようにと!!「日中友好侵略史」を即読了。先人たちが創り上げた日中関係の正常な成長を希求されてやまない著書に、私も日本人の一人として反省し、同感・共感した次第です。

佐世保市東浜町●池田 よし子

■今回より「夢のひろば」が始まり、素敵な歌で感動しました。また、門田氏の講演も、世界情勢について、身振り・手振りで、力を込めて話されました。佐世保が大事な基地だと言われたので、またお話の続きを聞きたいと思いました。

佐世保市木風町●西 照美

■佐世保が太平洋戦争の要であったとか、戦艦大和が沈んだことを、明らかにできなかったことは、時代が戦争中だったからだろうなと思いました。講師のテーマが途中で変わってしまったりしましたが、私も戦艦大和がなぜ沈んだのか、よく知らなかったの、真実を知ることができてよかったです。LGBT法案や、今、日本が抱えている問題について、一つ一つ読み解いていかなければならないので、これからの時代をしっかり見ていきたいと思います。

佐世保市小島町●高増 香里

■「夢のひろば」は、4年ぶり復活のステージにふさわしく、清々しいハーモニーに、大変気持ちよくなりました。本日の講師のテーマは、ちょっと外れた? いいえ、テーマに即したお話を興味深く拝聴しました。今の時代、忙しくつろいで行っていることが多々ありますが、もう一度立ち止まり、考えねばと思います。

佐世保市赤崎町●木村 典子

■久しぶりの「夢のひろば」でミカエルさんの美声を楽しんだとともに、門田さんの不気味な中国の動きなど、時代の読み解き方を学びました。いつもながら、スタッフの皆様、ありがとうございました。

佐世保市大和町●宅島 富士彌

テレビ番組「そこまで言ったら委員会」のメンバーで、歯に衣着せぬ問題発言をしつつ謝る姿も時々見られ、本音を吐く正直な人なのだろうと感じる。

戦艦大和の生き残り兵士たちの声は、毅然と生きた日本人像をテーマにした、渾身の取材の表れであり、忘れてはならない貴重な証言である。語り継ぎ、風化させてはならない。

LGBT法案のデモリットも読み解かれたが、何にでもデモリット・デモリットがあり、それを認め、生きていくこと

こそ、この激動の時代を生き抜く知恵だろう。歴史に学び、世界情勢にも関心をもつことの大切さを学び、視野を広げ、豊かな人生にしたいものだ。

これからの時代

長崎市小江町 岩崎 章子

第三回の講師は、門田隆将氏でした。コメントーター等では活躍されている同氏の講義は、大変おもしろく、そういう裏側があったのかと思いましたが、戦前・戦後の話や今後のLGBT法の行く末を、改

めて考えさせられました。

今後、トイレに行く時に、男性と思われる人が「自分は女性だから」と話したら、温泉で男の人が入ってきたら、と考えると、不安になりました。マイナンバーカードと同じような見切り発車の感じが否めない気がします。

ところで、戦中に佐世保の果たした役割の大きさと、いうものに、改めて気づかされました。戦後生まれで、しかも長崎市にいと、戦時中の話は、とたく被爆の話が中心になりがちです。今年も八月九日がくると、自然とそうなるでしょう。でも、もしかしら、戦争中の作戦次第では、違った結果もあり得たと考えさせられました。

北はロシアに、南は中国に、常に狙われているという危機感をもっておく必要がある時代に、私たちは生きています。大変な時代ということなんです。ともかく、考えさせられた一夜でした。

私にできることは?

佐世保市大和町 新北 博美

させほ夢大学に入学して三年目で、「夢のひろば」の生演奏は初めてでした。とても素敵な時間をありがとうございました。今後も楽しみにしています。

今回の講師、門田さんの第一声は、「時代が激動している」でした。毎日の新聞・ニュース等々では、胸がゾワゾワ

夢のひろば

◆日時/7月20日(木) 午後6時~6時20分

◆演目/発車オーライ! バスの旅

◆出演/山口 美都子

◆出演者紹介

元佐世保市交通局の観光バスガイドであり、自分で「昭和のバスガイド」と言っています。

バスガイドが乗務する観光貸切バスは、35年前廃止。15年ほど前から、依頼があれば、スライドを使って観光地を紹介しながら、1時間30分の旅行気分を楽しんでいただいています。

◆演目解説

2016年4月に発生した熊本地震の、その後の復興の様子を交え、熊本城・阿蘇山を中心に観光案内します。今回は、20分という短いバスの乗車となりますが、熊本への旅をどうぞ満喫されてください。

では、皆様、発車オーライ!

激動する時代を読み解く!

ワッして気分が暗くなりそうな内容ばかりです。LGBT法案の内容にしても、日本の抑止力にしても、またはその他の問題でも、難しく一体どれが正しい方向へ向かうのか、おかしい方向へ向かっていないか、自ら手に入るニュースだけでは理解できないことが多いと感じます。そういう時に今回のような夢大学で、まさに「時代を読み解いて」様々な方面からの物の見方を知ることができるとは、非常に勉強になります。

中国・台湾・日本；、刻々と変化する世界情勢；、私にできることは？？自分なりの考えをもって、それを代弁してくれる人を選挙で選ぶことかな？そのためには、きちんと知る必要がある、という痛感しました。

取材は、魂と魂の揺さぶり合い！
佐原市八王子系町 松井 昭夫

何のインタビュー記事であつたか忘れてしまったが、標題の言葉を見て門田隆将氏を知った。テーマは「毅然と生きた日本人像」をノンフィクションとして描くことだという。当時関心のあつたスポーツの世界、福島原発に関するテーマの本を何冊か読んだ。臨場感いっぱい熱く語る作品に取り込まれてしまった。その著者が今回の講師である。期待いっぱい、楽しみにして参加した。

開口一番、航空援護なしの無謀な特攻作戦の末に、昭和20年4月7日、東シナ海で永遠の眠りについた、巨大戦艦大和の話だった。大和の乗組員332人のうち、生還した人は276人。取材時の作

戦参謀とのやり取り、設計者や乗組員からの証言を引き出したのは、正に「魂と魂の揺さぶり合い」の結果であり、その状況が目に見えるようであった。当事者の証言はもとより、膨大な取材、手記や日誌、資料分析を経て、我々の心を打つノンフィクション作品が出来上がるのかと、改めて著者の覚悟を見る思いがした。

次に「LGBT理解増進法」
「日中国交50年」という、今回の講演のテーマに触れた。ただ、「LGBT理解増進法」については、性的少数者に対する理解を広めるための法案だったのが、議論すればするほど趣旨とは反対の法案になっていった。なぜなのか？講演時間が足りなかったのはわかるが、法案の本質をもっと丁寧に説明してほしい。

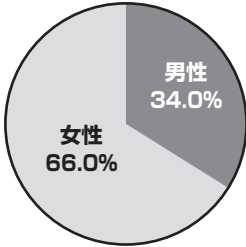


講演を聴かれた感想をお待ちしています!

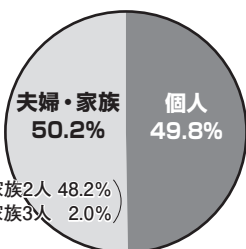
※締め切りは7月26日(水)(必着)
※宛先は、させば夢大学事務局まで

令和5年度 第32期 させば夢大学 受講生データ

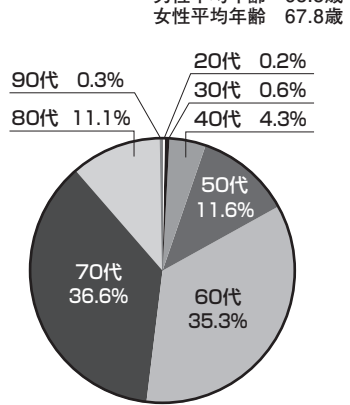
1 男女比



2 受講生比



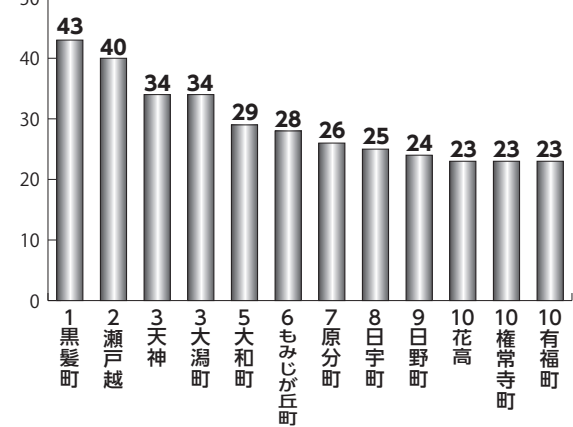
3 年齢別



5 市外状況

・佐々町	58人	・波佐見町	30人
・川棚町	54人	・平戸市	17人
・西海市	45人	・長崎市	15人

4 住所別ベスト10



・諫早市	4人	・有田町	35人
・南島原市	1人	・武雄市	5人
・時津町	1人	・伊万里市	2人
・長与町	1人	・嬉野市	1人
・松浦市	15人		
・大村市	11人		
・東彼杵町	7人		

九十九島

ふもやま話

4

カノコユリ

柴田 昭隆

(平成一四)に市制一〇〇周年を記念して、市の花に選定された。しかし、カノコユリを見たことがある人は意外と少ない。それもそのはずで、カノコユリは環境省が絶滅危惧Ⅱ種に分類している希少植物である。

西海国立公園のシンボルである九十九島は常緑樹で覆われて年間を通して緑一色であるが、夏の時季にカノコユリが咲いて彩(いろど)りを添える。

カノコユリは、ユリ科の多年草で、自生種は九州・四国に分布しているだけである。崖地を好み、香りが強く白地に赤味の強いピンクの斑点があり、花はうつむき加減に咲く。楚々としたつつましさを感ぜさせる中に華やかさを備えた花だ。カサブランカという香りのよい大輪のユリは、ヤマユリやカノコユリなどの日本のユリを主体にして改良された花である。カノコユリという名称は、花びらの斑点模様の子鹿(鹿の子)の斑点に似ていることによる。

カノコユリは、二〇〇二年

市内のあちこちに自生していたが、昨今のイノシシによる農作物被害と同様にカノコユリも球根を食べられている。カノコユリの仲間であるコオニユリの球根は日本料理の高級食材として栽培されているほどだから、イノシシにとつてもおいしい食物に違いない。市内に自生するカノコユリは年々少なくなっている。

あるから人の手で増殖させることはできない。イノシシ対策の決定打を見いだせない中で、自生種が種から育つには相当の年月を覚悟しなければならぬ。カノコユリが市花に指定された年に西海パールシーセンターが南九十九島のカノコユリの株数を調査して、五千株以上を確認した。二〇一五年と一六年に行つた同様の調査では三三二一株であった。調査方法が全く同じではないにしても、十数年で約二千株減少している。

かつては、九十九島を巡る観光船からも松浦島、斧落(よきおとし)島などに咲く花を間近に見ることが出来た。

九十九島に多く自生するカノコユリは、海で隔てられているからイノシシの被害から安全かという点、そうではない。驚いたことにグルメなイノシシは、泳いで島へ渡りカノコユリの球根を掘り出して食べる。

食用のユリ根を栽培するには畑に植え付けてから収穫するまでに六年かかるという。九十九島は国立公園



九十九島に咲くカノコユリ

事務局だより

★門田隆将さん、ありがとうございます。

「門田さんがいるところ、どこでも話の花が咲く。」長崎空港からのタクシーの中でも、アルカスSASEBOの楽屋の中でも、もちろん講演会のステージ上でも、ずっとずっと話の花が咲いていました。

一つ一つの話に迫力があり、聴衆を引き込ませてしまう話術をお持ちの門田さん。作家という立場を通し、多くの取材を積み重ね、自分の意見として述べておられるので、話の説得力があります。

戦時中の佐世保の役割や、日中関係を含めた世界情勢、LGBT法案の良し悪し等、時代の読み解き方のヒントを与えてくださいました。

折しも、講演会翌日は、門田さん65歳の誕生日。ますますお元気で、ご活躍されますよう、お祈りします。

そして、書籍やテレビ等を通し、時代に合った読み解き方を示唆してくださいますようお願いいたします。

★「夢のひろば」のステージ復活!

「生歌・生演奏、いいですね。」講演前の素敵な時間を過ごせました。

4年ぶりの「夢のひろば」の復活は、このように私たちの心を釘付けにした、ひと時となったようです。

20分間という短い時間でしたが、ミカエルさんたちの歌と演奏は、アルカスSASEBOの大ホールに美しく響き、その後の講演会に花を添えていただいた感じがします。

ミカエルのお二人(山口美佳さん、ハーマン佳恵子さん)、そして、ドラマの佐々木久和さん、ベースの田中博一さん、本当にありがとうございました。

次回、「夢のひろば」は、元市営バスガイドの山口美都子さん。20分間で、私たちを熊本旅行に連れて行ってくださいます。山口さんの軽快な案内のもと、バスに乗った気分です、楽しくお過ごしください。(詳細は、内面をご覧ください。)

★感想文、お送りください。

本広報誌「夢のつづき」には、本編感想文(4000字程度)と、三行感想文(1400字程度)の二種類を掲載しています。

感想文を書いたことがない方を含め、多くの方々の感想を掲載したいと思います。送付は、メール・FAX・郵送のいずれかで、させば夢大学事務局まで。締め切りは7月26日(水)必着です。皆様、奮って感想文をお寄せください。